家庭でできる、実験レシピ!

保 大人といっしょに!

【実験13:とけていたものが、現れた!】

— 推奨クラス:プライマリークラス・ミドルクラス・アドバンスクラス —

■実験の流れ

お湯(ゆ)に塩(しお)をとかしこみ、そのなかにクリップをたらします。そして、そのまま何日(なんにち)か置(お)いて、なにが起(お)こるかを観察(かんさつ)します。

■用意するもの

塩 250グラム、熱(あつ)めのお湯 500ミリリットル

たい熱(ねつ)の容器(ようき:コップなど)

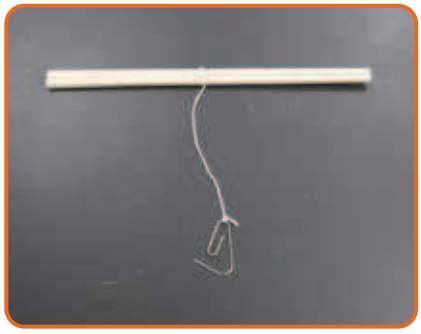
わりばし、クリップ、ひも

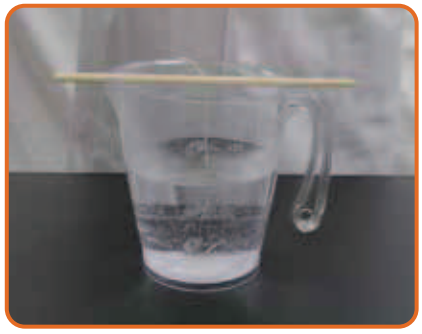
■実験の手順

①容器に熱めのお湯500ミリリットルを入れて、そこに塩250グラムをとかしこみます。

②わりばしに下の写真(しゃしん)のように、まげ広(ひろ)げたクリップをひもでつるします。

③わりばしを容器の上にかけて、クリップをお湯の中に入れます。そのとき、クリップがお湯のまん中あたりにくるように、ひもの長(なが)さを調節(ちょうせつ)してください。そして、1週間(しゅうかん)、そのままにして観察します。





【実験を始める前に】

■実験を始める前に実験のやりかたをよく読(よ)んで、さいごにどうなるか、考えて(予想:よそうして)みましょう!

[　　]

【実験が終わったら】

■予想したことと、実験の結果(けっか)は同(おな)じでしたか? もしちがっていたら、その理由(りゆう)を考えましょう。

[　　]

【考えるヒント】

①塩をお湯にとかしたあとに、小皿(こざら)に塩がとけたお湯を、ふかさ5ミリメートルくらいとっておきましょう。そのまま皿の中の水が全部(ぜんぶ)なくなるまで置いておくと、なにかが皿の底(そこ)に見えるはずです。